

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019年3月

事業所名：PARCあしや

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用児童それぞれの興味関心を引き出せるようなスペースを確保するように努めている。	楽しく遊んだり、学べる環境。よく動く子にとっては手狭になる時がある。	児童の活動に合ったスペースの確保に気を付けながら、楽しく学びを深められる環境づくりを心掛ける。
	2 職員の適切な配置	個別療育だからできる児童・保護者も含めた細やかなフォローができる体制を取っている。	しっかり個別対応ができています。見学の時からしっかり子どものところを掴んで見てくれている。	今後も個別療育ならではのしっかりとしたフォローが行える療育を行っていきたい。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	教室環境は児童自身が見てわかる視覚支援を行い、室内はフラットな環境を提供出来ている。	視覚支援もしっかりされており、子どもにとって分かりやすい支援を受けられている。	視覚支援など現在行っている誰もが分かりやすい療育を継続していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	ご利用者すべてがほっと落ち着いて過ごせる環境づくりを心掛けている。	カフェのようなおしゃれな雰囲気でもおもしろい親子共々快適に過ごせている。	今後も親子がほっと安心して過ごせる温かい環境づくりを心掛けていきたい。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的にモニタリング・カンファレンスを行い、日々の療育に活かしている。	/	継続
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	未実施のため、これから実施検討していく。	/	未実施のため、これから実施に向けて検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	職員の意識向上のため、積極的に外部研修に参加したり、講師をお招きした事業所内研修の機会を設けている。	/	よりよい療育に繋がるようこれからも様々な学びを重ね、スタッフの意識向上を目指していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	半年ごとに保護者に聞き取りを行い、お子様の日々の成長過程も踏まえて確認を行った上で新たな目標を設定し、計画書を作成している。	子ども子どもに合った支援内容(トイレトレーニングなど生活面の自立など)を設定してもらえた。計画書作成の際は保護者の思いをしっかりヒヤリングしてもらえ、子どもが過ごしやすいよう考えられた目標・設定になっていた。	丁寧なアセスメントを継続して行っていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用児童の状況に応じた目標設定を行い、楽しみながら学びを深められるよう個別療育を行っている。必要に応じて集団療育の機会も設けている。		今後も利用児それぞれの現状をきっちりと把握した療育を継続していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	机上活動や運動面などトータルで支援できるように一人一人に合った項目作りと支援内容の作成を行っている。		継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画を実施するにあたり、スタッフ間で支援の方向を細かくモニタリングしながら行っている。	行われている。	継続
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	日々行えている。		継続
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は主に個別療育を、祝日・長期休暇時には日頃の個別療育に加えて集団療育の機会を設けるようにしている。	子ども主体の遊びで、興味の幅が狭い為、活動が固定化されやすい様に思うときがある。子どもの好きなことから興味を広げられているように思う。活動がマンネリ化しているように見えることがある。	継続
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	児童が大切にしているルーティーンを守りつつ、興味の幅を広げられるように児童の無理のない範囲でスタッフからプログラムの提案を行うようにしている。		お子様がどのような理由からその行動をとっているのか、児童の行動について保護者へ細やかなフィードバックを行うようにする。共通理解を深めていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎朝朝礼を行い確認している。		継続
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	翌営業日の朝礼にて情報共有を行っている。		継続
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	デイ日誌と経過記録表を使用している。		児童がその日どんな活動をして、そこからどのような発見があったのか記録項目をもっと細かく行えるよう検討していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的にモニタリング・カンファレンスを行い、日々の療育に活かしている。計画書は保護者と確認し合いながら半年ごとの更新を行っている。		継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	管理者・スタッフが幼稚園や小学校などで行われる支援会議や相談員さんも交えたモニタリングに参加出来ている。	継続	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	幼稚園や小学校など教育機関との情報共有は日頃から細かく行えている。	継続	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	未実施。	今まで保護者との連携はあったが、今後必要に応じて移行支援が円滑に行えるように検討していく。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修の機会があれば積極的に参加している。必要に応じて発達支援センターとの連携も取れている。	今後も地域の会のスキルアップ研修など研修の機会があれば積極的に参加していきたい。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	公園に出かけた際や、利用児の兄弟と同時になった場合触れ合う機会がある。	地域の小学校やこども園に通っているため特に必要性を感じない。	パークは個別療育で教室内で完結してしまう事が多い。日頃、地域の小学校や幼稚園などに通う児童が多いためその必要性を感じない保護者もいらっしゃるよう。公園に出かける機会など以外はどうしても療育中は兄弟児とふれあう時間に限られることが多くなってしまう。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	行えている。	わからない。	地域の放デイの会に参加し、そこでのイベントに参加している。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に行うようにしている。	契約時に説明があった。	継続
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書にサインを頂く際はスタッフから説明を行った上で頂いている。	きちんと説明を受けた。	継続
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	行えている。	いつも相談させて頂き、PARCが保護者にとって心強い存在になっている。今後保護者に向けたペアトレ講座があると嬉しい。	保護者と話す中で細やかなニーズの把握を行いながら、日頃の様子の変化からお子様への配慮すべき点や適切な声掛けなどアドバイスできるところは行っている。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	毎回スタッフが保護者のもとを訪れ、1週間の様子の聞き取りや近況からの悩みを共有させて頂く中で共通理解を深めている。	細かく日頃の様子を聞いて頂いている。	継続
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	適宜行うようにしている。	今後障がいのことや困りごとへの助言がもっと増えると嬉しい。	日頃の様子から児童の行う行動の背景や特性についてのフィードバックをもっと細かく保護者に行っていきけるよう心掛けていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	日頃同時間になられた保護者同士でお話しして頂いたり、事業所で茶話会も開催した。	PARCの茶話会へ参加の機会があり、嬉しく思う。	茶話会の開催からスタッフだけでなく、保護者間の繋がりができることにより、パークがより保護者にとって心強い環境になれることが私たち自身も実感した。今後も茶話会や親子参加イベントを通して総合的な支援を行えるよう企画していきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	日頃保護者と接する機会の他にも、教室に意見箱を設置するなど細かく配慮を行っている。意見を頂いた後はすぐ周知の後、対応を行うようにしている。	相談窓口や対応について説明があったが、まだその状況になったことがない為分からない。	配慮すべき点を踏まえながら、今後のより良い療育のため対応できるようスタッフも日々努力していきたい。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	誰もが分かりやすい配慮をするよう心掛けている。	されていると思う。	継続
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月事業所だよりを発行し、ホームページやSNSでも情報提供を行っている。	されていると思う。	継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に個人情報取り扱いについての同意書を作成しており、その後の取り扱いについても十分気を付けるようにしている。	されていると思う。	継続
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルの周知・徹底を行っていく必要がある。	わからない。	マニュアルの周知・徹底を行っていく必要がある。保護者への説明も行う必要がある。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	必要に応じて災害発生時を想定した避難訓練を児童と共に行っている。	通っているのが週に1回の1時間なため、まだ訓練に当たったことはない。わからない。	避難訓練開催がなるべく様々な児童と体験できるよう配慮を行いながら今後開催していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	社内で職員間での虐待防止研修を実施し、職員間での認識を統一するよう心掛けている。		継続
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	計画書には記載出来ていない。		見直し・検討が必要。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギーの有無の聞き取りが不十分であった。		これまではおやつ提供の機会がなかった分手薄になっていたが、今後アセスメントシートの見直しから検討していく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットが上がった際は書類に残し、翌営業日の朝礼で共有するようにしている。		細かいヒヤリハットも今後書式にしていき、書式集として残していく。